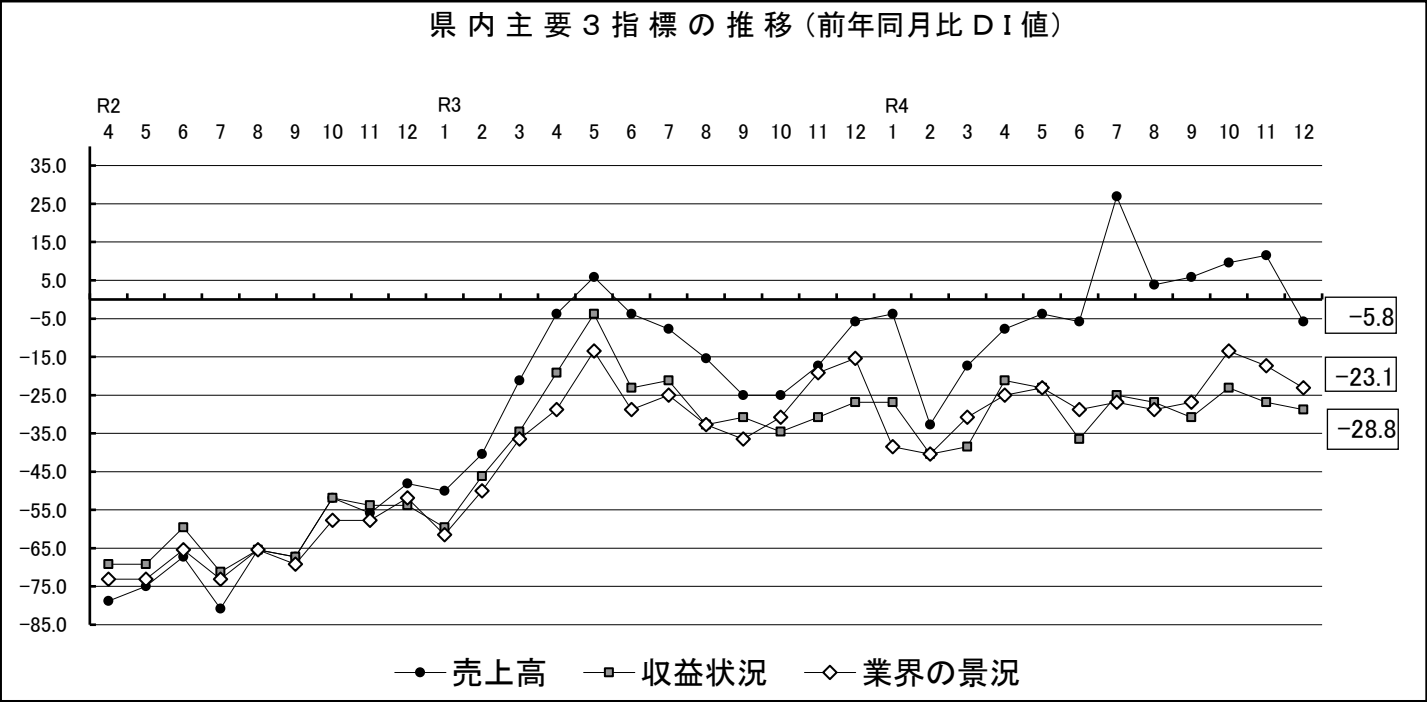


中小企業団体情報連絡員報告結果(令和4年12月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員（中小企業組合（協同組合、商工組合等）の役職員 5 2 名に委嘱）による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 主要 3 指標は、すべて下降した。
- 製造業で「一般機器」「木材・木製品」、非製造業で「小売業（飲食業含む）」が依然として厳しい。
- 原材料・燃料費の高止まりによる収益悪化や人材不足等の報告も多く、今月も厳しい状況である。



主要3項目	県内		全国	
	DI 値	前月比	DI 値	前月比
売上高	-5.8	-17.3	-0.8	-2.1
収益状況	-28.8	-1.9	-29.2	+1.9
業界の景況	-23.1	-5.8	-21.5	+1.4

売上高

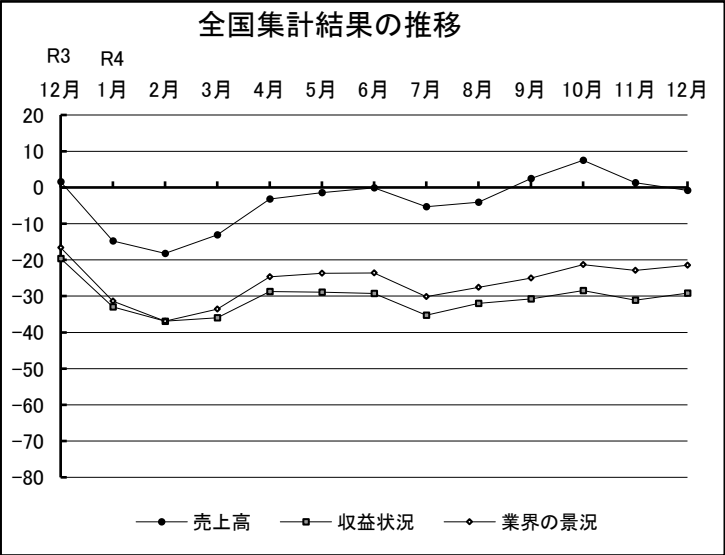
当月の県内売上高 DI 値は、前月より 17.3 ポイント下降し、-5.8 ポイントとなった。全国においては、前月より 2.1 ポイント下降し、-0.8 ポイントとなった。

収益状況

当月の県内収益状況 DI 値は、前月より 1.9 ポイント下降し、-28.8 ポイントとなった。全国においては、前月より 1.9 ポイント上昇し、-29.2 ポイントとなった。

業界の景況

当月の県内業界の景況 DI 値は、前月より 5.8 ポイント下降し、-23.1 ポイントとなった。全国においては、前月より 1.4 ポイント上昇し、-21.5 ポイントとなった。



-概 況-

12月の前年同月比DI値は、前月と比べ9指標中6指標が下降した。主要3指標は「売上高」は17.3ポイント下降、「収益状況」は1.9ポイント下降、「業界の景況」が5.8ポイント下降となった。

業種別・指標別にみると、「木材・木製品」では、販売価格は上昇とする企業がほとんどだが、材料費・エネルギー価格の高騰により収益確保が困難な状態が続いている。また、中国で新型コロナウイルスの感染が拡大しており、操業を停止している工場が増加しているとの情報があり、今後の影響を懸念している。また、「一般機器」においては、売上高は増加傾向が続いているものの仕入れ資材は引き続き高値であり、エネルギー価格も値上げが懸念され収益悪化となっているとの声があった。非製造業においては、「運輸業」で年末にかけて上向きの状況であったが、労務費やエネルギーコストの上昇分を自社のみで賄うことが難しいとのほか、原材料価格の上昇や円安の影響で荷主企業側も厳しく価格転嫁の認識に隔たりがあるため、収益が確保できずに厳しいとの報告があがっている。

当月も、原材料・燃料費などの上昇が続き収益が悪化しているとの声や、中国での新型コロナウイルスの感染拡大に起因するサプライチェーンへの甚大な影響を懸念する声があがっており、先行き不透明感が強く予断を許さない状況である。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	75.0	-25.0	75.0	0.0	-50.0	-25.0	25.0	0.0	0.0
繊維・同製品	0.0	0.0	50.0	-25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
木材・木製品	-25.0	25.0	-25.0	0.0	-75.0	-25.0	0.0	0.0	-50.0
印刷	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
窯業・土石	-75.0	-25.0	50.0	-25.0	-25.0	0.0	-25.0	0.0	-50.0
鉄鋼・金属	50.0	-50.0	25.0	-25.0	-25.0	-25.0	0.0	-25.0	-25.0
一般機器	0.0	25.0	25.0	-25.0	-50.0	-50.0	-25.0	0.0	-50.0
製造業	4.0	-4.0	36.0	-16.0	-32.0	-20.0	0.0	-4.0	-28.0
卸売業	66.7	0.0	66.7	33.3	33.3	33.3		0.0	33.3
小売業	-71.4	-14.3	0.0	-28.6	-85.7	-28.6		0.0	-57.1
サービス業	0.0		66.7	16.7	16.7	-33.3		0.0	0.0
建設業	0.0		20.0	0.0	-40.0	-20.0		0.0	-20.0
運輸業	-25.0		-25.0	0.0	-25.0	-50.0		-25.0	-25.0
その他	0.0		50.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	-14.8	-10.0	25.9	0.0	-25.9	-22.2		-3.7	-18.5
全 体	-5.8	-5.7	30.8	-7.7	-28.8	-21.2	0.0	-3.8	-23.1

図表2 【指標別DI値の推移】

	3年 12月	4年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	前月比
売上高	-5.8	-3.8	-32.7	-17.3	-7.7	-3.8	-5.8	26.9	3.8	5.8	9.6	11.5	-5.8	-17.3
在庫数量	-20.0	-5.7	-8.6	-20.0	-17.1	-14.3	-5.7	-11.4	-5.7	-14.3	5.7	5.7	-5.7	-11.4
販売価格	11.5	9.6	15.4	21.2	25.0	25.0	23.1	32.7	30.8	30.8	36.5	34.6	30.8	-3.8
取引条件	-9.6	-5.8	-5.8	-7.7	-7.7	-9.6	-9.6	-9.6	-9.6	-13.5	-7.7	-11.5	-7.7	3.8
収益状況	-26.9	-26.9	-40.4	-38.5	-21.2	-23.1	-36.5	-25.0	-26.9	-30.8	-23.1	-26.9	-28.8	-1.9
資金繰り	-13.5	-15.4	-26.9	-21.2	-13.5	-11.5	-13.5	-13.5	-25.0	-21.2	-15.4	-21.2	-21.2	0.0
設備操業度	-4.0	-8.0	-28.0	-12.0	-20.0	-16.0	-20.0	4.0	-12.0	-12.0	4.0	12.0	0.0	-12.0
雇用人員	-7.7	-11.5	-11.5	-5.8	-7.7	-13.5	-13.5	-3.8	0.0	-1.9	-3.8	-5.8	-3.8	1.9
業界の景況	-15.4	-38.5	-40.4	-30.8	-25.0	-23.1	-28.8	-26.9	-28.8	-26.9	-13.5	-17.3	-23.1	-5.8

特記事項

情報連絡員報告（令和4年12月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 （産業分類細分類相当）	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	和洋菓子製造業	業界的には観光地または駅などでの状況は良い。価格の値上げについては、消費者もあまり抵抗はないが消費高については不安がある。
繊維工業	縫製業	注文の数量はロットが少なくなり少しは工賃が上がったが、生産性は逆に悪化した。海外生産から国内へ回帰する話も出ているが工賃が安くて受け入れられない物が多い。
	外衣・シャツ製造業	年に3回綿価や仕入値が上昇したが販売価格の転嫁ができていない。
	絹・レース・繊維粗製品製造業	12月に入り一気に流れが止まり、その要因として中国のコロナ事情の影響が大きいようだ。以前から繊維関係は生産体制を中国に依存しているが、コロナウィルスの感染状況も悪化し生産体制が維持できず、資材を送り込めない状況が続いている。また、人流も止まっており、中国国内の販売状況も停滞しているので、生産計画の下方修正の連絡が少しずつ入っている。相変わらず、日本国内もアパレル関連は低調のようなので、2023年も厳しい状況からのスタートとなりそうだ。
木材・木製品	一般製材業	木材の在庫について動きはあるが、来年の需要が下がるとの予想があり、当該事項につき懸念している。
	家具・建具製造業	売上は減少とする割合が多数を占めた。このところの増加基調への反動と、繁忙期である第4四半期前の調整と思われる。販売価格は上昇とする企業がほとんどであるが、材料費・エネルギー価格の高騰により収益確保が困難な状況が続いている。ただし、木材価格は低下傾向にある。 中国で急速に新型コロナ感染が広がっており、操業を停止している工場が増加しているとの情報があり、今後サプライチェーンに甚大な影響が発生するとの懸念が広がっている。
印刷	印刷業	コロナ禍の影響は4年目に入るが、リモートワークやSDGs等によるペーパーレスが進む中、追い打ちをかけるように材料費高騰が続き、社会全体のデジタル化に伴う印刷需要の減少が避けられない。
窯業・土石製品	石灰製造業	昨年に比べ、鉄鋼向けは増加、建材・肥料関係は減少した。全体では昨年に比べ減少した。
	陶磁器・同関連製品製造業	12月に入り、土日の観光客が減少している。そのため小売業の売上が落ち込み、製造業の稼働も抑え気味である。1月より粘土等が値上がりするため、今月は、仕入れを増やしており、支払いの負担が大きい。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	自動車関連においては、部品の荷動きは回復傾向にあるものの、新規試作や金型の動きには鈍さがあり経済の回復とは言えない。また年末にきて、コロナ感染拡大が止まらず組合各社対応に追われている。感染者や濃厚接触対象者の際の、業務上の人手不足が深刻で、特定社員の残業超過など、限られた人数でのやり繰りに苦慮している。
	金属製品製造業	売上高・販売価格ともに昨年12月と同様である。
	金属製品製造業	自動車部品関連・機械設備関連・プレス金型関連のいずれにおいても業況は低下している。（主にコロナ禍による売上低下、人件費増加、人手不足、原材料仕入単価の上昇）。
一般機器	一般機械器具製造業	組合員間の状況の差が激しい。自動車関連の業種では、見通しが立たず苦しい状況。

	一般機械器具製造業	前年同月と比較し、売上高は増加傾向が続いているものの仕入資材の状況は引続き高値傾向であり、電気料、消耗品等の値上げ懸念もあり、収益悪化となっている企業も出ているが、全体的には不変といった状況である。操業度（稼働）はほぼ前年同様となっており、企業によっては人手不足が深刻化している。
卸売業	各種商品卸売業	一部業種を除き、売上高・業況等は前年同期に比べ好転とする企業が多いが、仕入単価上昇の影響により利益率は減少とする企業も多い。
小売業	食肉小売業	電気料が2倍になり全ての物が値上がりして、利益が出せない状況。歳末の活気はなかった。
	各種商品小売業	先月より続くコロナ感染者増加の流れは止まることなく、結果は年末商戦は厳しい数字となった。昨年に続き、売上ボリュームの高い冬にコロナの流行が重なるのは辛い。
	花・植木小売業	12月に入り葬儀の件数が増加した。婚礼の施行数も昨年末と比べれば増えた印象。菊、カーネーションなどの主力商品の出荷が減少したことで仕入れ価格が上昇した。
サービス業	理容業	時期的に繁忙期ということで、客足は通常より増加傾向にある。ただ、電気料金・水道料金等公共料金の値上げにより、打撃を受けている店舗も出てきている。影響を受け、廃業を余儀なくされている高齢者組合員も見受けられる。
	自動車整備業	収益状況の悪化が目立つ。仕上部品など材料費高騰の影響が大きいと考えられる。
	給食センター	惣菜事業の方は伸び傾向にあるが、ガス・電気代の上り幅が高く、収益や資金繰りはまだ厳しい状況から脱していない。以前と同程度に戻れば資金繰りも経営も一気に改善する。
建設業	職別工事業	年末を迎え、工事受注高は対前年同月比及び対前月比ともに増加傾向にあるものの材料費の上昇により収益を圧迫している。当面、賃金の増加は見込めない。
運輸業	貨物自動車運送業	年末にかけてはやや上向きの状況ではあるが、労務費やエネルギーコストの上昇分を自社努力で賄うことが難しい。原材料価格の上昇や円安の影響で荷主企業側も厳しい状況の中で、価格転換の認識に隔たりがあり燃料費を含む適正な運賃の収益ができず厳しい。
	貨物軽自動車運送業	上旬から中旬までは物流の動きが例年に比べて鈍かった。日本海側地域における大雪の影響が年末まで続き配車ができない日も数日あった。年末にかけて、来年に向けての引越しの問合わせや、組合の事業内容説明会参加への問合わせも多くあった。